

会社の概要 (2022年3月31日現在)

商号 日本山村硝子株式会社 (Nihon Yamamura Glass Co.,Ltd.)
 本社所在地 関西本社 兵庫県尼崎市西向島町15-1 電話 06-4300-6000(代表)
 東京本社 東京都新宿区西新宿6-14-1 電話 03-3349-7200(代表)
 新宿グリーンタワービル20階
 創業 1914年4月5日
 設立 1941年12月11日
 資本金 140億7,496万5,448円
 従業員数 743名
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部(※))
 会計監査人 有限責任 あずさ監査法人
 (※)市場区分の見直しにより2022年4月以降、スタンダード市場へ移行しております。

大株主の状況

株主名	所有株式数	所有株式比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	937千株	9.18%
日本山村硝子取引先持株会	615	6.02
株式会社日本カストディ銀行	449	4.40
株式会社三井住友銀行	425	4.16
グレイスイスルンゼンブルグ エスケー カスタマー アセツク ファンス ユーシツツ	395	3.87
山村 幸治	305	2.99
日本山村硝子従業員持株会	299	2.93
日本生命保険相互会社	284	2.78
三菱UFJ信託銀行株式会社	254	2.49
株式会社三菱UFJ銀行	241	2.36

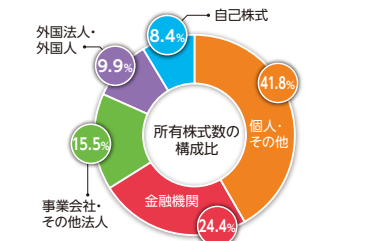
(注)1. 当社は、2022年3月31日現在、自己株式932千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 所有株式比率は自己株式を控除して計算しております。
 3. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社、株式会社日本カストディ銀行の所有株式数には、信託業務に係る株式数が含まれております。
 4. 所有株式数は表示単位で切り捨て表示しております。

株式の状況 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数 30,000千株
 発行済株式の総数 11,145千株
 株主数 8,099名
 単元株式数 100株

所有者別株式分布状況

	株主数	所有株式数
個人・その他	7,769名	4,660千株
金融機関	20	2,720
事業会社・その他法人	239	1,725
外国法人・外国人	70	1,106
自己株式	1	932
合計	8,099名	11,145千株



役員 (2022年6月28日現在)

取締役 (監査等委員である取締役を除く。)
 代表取締役社長執行役員 山村 幸治
 取締役 常務執行役員 小林 史吉
コーポレート本部および 研究開発センター首席
 取締役 常務執行役員 明神 裕
ガラスびんカンパニー社長
 取締役 執行役員 山村 昇
プラスチックカンパニー社長
 取締役 執行役員 田口 智之
ニューガラスカンパニー社長

監査等委員である取締役
 取締役 常勤監査等委員 水田 好彦
 取締役 監査等委員(社外) 井上 善雄
株式会社巴川製瓶所代表取締役社長(独立役員)
 取締役 監査等委員(社外) 高坂 佳郁子
弁護士(独立役員)
 取締役 監査等委員(社外) 泉 豊禄
ハクスイテック株式会社代表取締役社長(独立役員)

執行役員
 執行役員 植田 光夫
グループサステナビリティ責任者、環境室室長
 執行役員 井料田 保二
コーポレート本部長
 執行役員 木村 周二
研究開発センター長
 執行役員 副島 正義
ガラスびんカンパニー営業本部長

株主のみなさまへ

第93期 決算ご報告

2021年4月1日
 ≪
 2022年3月31日

Change and Challenge with You

日本山村硝子株式会社 <http://www.yamamura.co.jp/>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領日 株主確定日	3月31日
中間配当金受領日 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://yamamura.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事項、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)
 1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で行うこととなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
 なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するお手続きについて

○特別口座に記録された株式		お問合せ先
お手続き、ご照会等の内容	特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(※)		【手続書類のご請求方法】 ○インターネットによるダウンロード https://www.trmfujp.jp/daikou/
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	

○証券会社等の口座に記録された株式		お問合せ先
お手続き、ご照会等の内容	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ		
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

(※)特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけます。



この決算ご報告はFSC®認証紙とベジタブルインキを使用して印刷しております。

株主のみなさまへ

決算ご報告送付のご案内と期末配当の見送りについて

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。
 当社およびグループ各社(以下、当社グループと称します。)の第93期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の事業の概況をここにご報告申し上げます。
 なお、93期の期末配当につきましては、業績の状況を総合的に勘案し、実施を見送らせていただくことといたしました。このように無配とさせていただきますが、誠に遺憾でございますが、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

当社グループは、事業構造改革を推進することで、収益力の向上と資産効率の改善に積極的に取り組み、企業価値の向上を図ってまいります。株主のみなさまには、引き続き当社グループへのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

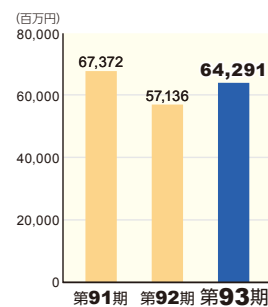
敬具
 2022年6月



代表取締役社長執行役員 山村幸治

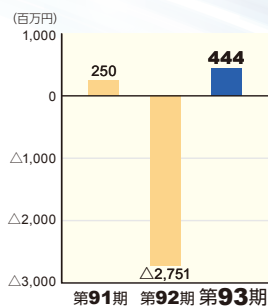
売上高 64,291百万円

ガラスびん関連事業では、国内ガラスびん業界の出荷量はコロナ禍前の水準までは戻っていないものの前期よりは回復し、当社の出荷量も増加しました。また、プラスチック容器関連事業でも前期においては新型コロナウイルス感染症の影響等により飲料用キャップの販売が減少しましたが当期は回復傾向となり、また海外子会社の販売も好調に推移しました。物流関連事業では新規連結子会社による売上の増加に加え、既存事業における新規業務受託および取扱い物量が増加しました。これらの結果、売上高は64,291百万円(前期比12.5%増)となりました。



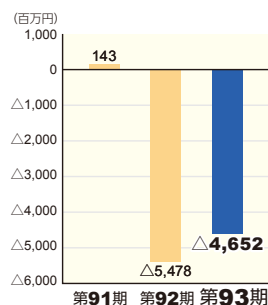
営業利益 444百万円

ガラスびん関連事業では当社における生産量の増加や製造固定費の減少等により改善しましたが、海外子会社における国際海上輸送のコンテナ不足の影響による出荷量・生産量の減少等により損失となりました。プラスチック容器関連事業では資材コストの削減や出荷量および生産量の増加等があり、物流関連事業では作業・配送効率の改善等により損益改善が進み、ニューガラス関連事業では当社および国内子会社の出荷の増加等により、増益となりました。これらの結果、連結営業利益は444百万円(前期は△2,751百万円の損失)となりました。



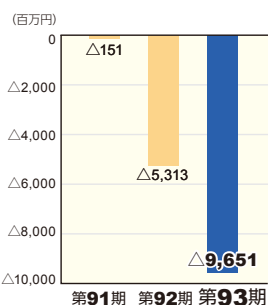
経常利益 △4,652百万円

米国の持分法適用関連会社において生産立ち上げが遅れたことにより損失が増加したため、持分法による投資損失は4,515百万円(前期は持分法による投資損失2,169百万円)となり、連結経常利益は△4,652百万円の損失(前期は△5,478百万円の損失)となりました。



親会社株主に帰属する当期純利益 △9,651百万円

特別損失に連結子会社の秦皇島方圓包装玻璃有限公司の全持分譲渡に伴う事業整理損失引当金繰入額等を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は、△9,651百万円の損失(前期は△5,313百万円の損失)となりました。



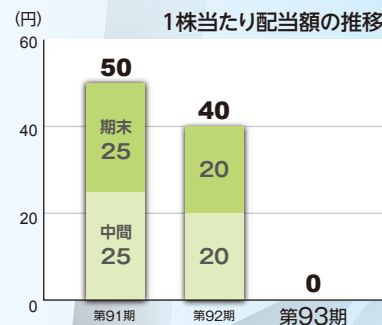
利益配分に関する基本方針および当期の配当

当社は、利益の配分につきましては、業績に応じた配当を継続的に行うことを基本に、海外への事業展開や成長事業への投資計画、財政状態等を総合的に勘案しながら、積極的に株主のみなさまへの利益還元を努めていきたいと考えております。

しかしながら、93期の期末配当につきましては、業績の状況を総合的に勘案し、誠に遺憾でございますが、中間配当金に引き続き、無配とさせていただきます。通期で無配となりましたことを、お詫び申し上げます。

次期の配当につきましては、中間配当金は無配、期末配当金は現時点では未定とさせていただきます。

1株当たり配当額の推移



研究開発成果の収益化に向けて 植物工場を建設中

当社と日本貨物鉄道株式会社が植物工場事業を行うために設立した合弁会社「山村JR貨物きらベジステーション株式会社」は、福井県において、植物工場を建設中です。

2023年4月から事業を開始し、ケール、クレソン、セロリ等の高機能野菜を生産する予定です。

当社の研究開発開始から16年が経過し、パイロットプラントでの経験を経て、このたび事業化が実現します。

同社は、工場新設を通じて高機能野菜の安定供給を行い社会に貢献するとともに、さらなる事業拡大で利益貢献を目指します。



NOx低減技術が実用化の段階へ

「プラズマ複合排ガス処理によるガラス溶解炉のNOx低減技術」がNEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)の「優良事業者賞」を獲得し、当社の研究開発能力の高さが公式に評価されました。この技術は、2011年から大阪府立大学(現:大阪公立大学)と共同研究を行っており、その原理および手法は知的財産として確保しております。

当社のガラス溶解炉への展開に留まらず、NOx規制の厳しい地域への販売に加え、火力発電、その他工業炉の排ガス処理にも応用可能な技術に発展させることで、新たな収益源となることが期待できます。



第18回 ガラスびんアワード 2022 当社製品が最優秀賞を受賞

「ガラスびんアワード」は日本ガラスびん協会が主催する、業界の代表となるイベントです。1年間に発売されたガラスびん商品を、デザイン性・機能性・環境性など様々な視点から審査し表彰します。“ガラスびんは優れた保存容器である”という視点で、世の中のトレンドをガラスびんを通じて感じ取ってもらう機会として開催しております。

第18回目を迎えた今回は、当社で製造したガラスびん商品が最優秀賞、日本ガラスびん協会特別賞、グループ会社の株式会社山村製壺所で製造したガラスびん商品が富永美樹賞を、それぞれ受賞いたしました。



「創家 大坂屋 純米大吟醸 720ml 瓶詰」
大関株式会社 様
製造 日本山村硝子



富永美樹賞

「海へ…Step ギフト BOX 森と…Step ギフト BOX」
有限会社がんこ本舗 様
製造 山村製壺所



日本ガラスびん協会 特別賞

「ファイブミニ」
大塚製薬株式会社 様
製造 日本山村硝子・東洋ガラス



日本ガラスびん協会 特別賞

「ハートランドビール」
麒麟ビール株式会社 様
製造 日本山村硝子

